未来の癒やし

古代と現代の薬師が語る

薬師寺 × 西の京病院

奈良市西ノ京には二つの薬師がある―。薬師如来は衆生の病苦を救い、無明の病を治す法薬を与える医薬の仏である。薬師寺は680年に藤原京で創建され、8世紀初頭に現在の奈良市西ノ京町に移転した。それから1300年の時を経て、薬師寺に近い同市六条町に医療法人康仁会が西の京病院を開院した。同病院は248床の病床を有する中規模病院であるが、「富士山構想」により最高の技術と最新の設備を有するとともに、地域包括ケアシステムにのっとった医療介護連携により一人一人の患者を生涯にわたって見守っていく総合医療を実践しており、メディカルプラザ薬師西の京は、名実ともに薬師の流れをつないでいる。薬師寺では東塔の解体修理が間もなく完成するなど、古代と現代の薬師の最新の出来事にスポットを当て、未来の癒やしのあるべき姿について、薬師寺管主・加藤朝胤師と医療法人康仁会西の京病院理事長・高比康臣先生に語り合っていただいた。

（聞き手は田中篤則・奈良新聞社代表取締役社長）

語り合う西の京病院理事長の高比康臣氏、薬師寺管主の加藤朝胤師、奈良新聞社社長の田中篤則（右から）

12年の年月かけ白鳳の塔が再び

―薬師寺東塔の工事の覆いが外れ、西ノ京の風景が変わりました。解体修理がほどなく完了します。

加藤　そうですね。東塔は伽藍（がらん）の中で唯一、1300年前の白鳳時代の姿を今に伝える建物です。1300年と一口に言いますが、48万日になります。毎日誰かが欠かさずお参りされ、祈願されているわけです。平成21年から全面的な解体修理に着手し、作業を進めてきました。解体修理は、48万日の祈りと心を未来に繋（つな）いでいくものです。大修理にあたっては、直接作業に携わっていただいた方からお写経を奉納していただいた方まで全国から約5万人の方のご協力をいただきました。

まもなく修理が完了しますので、東塔大修理落慶法要を営む予定です。

「不東」の精神で西ノ京に開院

―その薬師寺の近くに西の京病院があるわけですが、その歩みについてうかがいたいと思います。

高比　西の京病院は、昭和61年に開院しました。康仁会の基本理念は「安心」と「信頼」をキーワードに①安心で質の高い、開かれた医療を目指します②ADL（日常生活動作）の向上とQOL（生活の質）の確保を目指します③老後の安心・生涯の保障を追求し続けます―の3点を掲げ、患者さまを中心とする医療―療養―介護―福祉システムを充実し、一人一人の患者さまを一生涯かけて見守ることのできる医療環境づくりを実践することにあります。

私がこのような医療機関の創設を決意したのは、35歳の時でした。西ノ京近辺の土地を求め、38歳の時にオープンしました。その間、毎日薬師寺のそばを通ったものです。薬師寺は私の心の支えであり「不東（ふとう）」の精神で病院建設に取り組むよう導いていただきました。「不東」とは、玄奘三蔵がインドに達せずば東（祖国）に戻らずという気概を示した言葉で、不退転の決意を示すものです。

西の京病院としては最高の技術、最新の設備、最良の心で医療にあたることを基本として、設備面でPETを導入しました。PETはがんを早期に発見する検査機器で、患者さんの苦痛や負担が少ないのが特徴です。最新技術を取り入れた非常に高価な医療機器で、だいたい一つの県で4～5台というのが実状です。それを当院は17年前に3台も導入しました。またMRIで、1回で全身を断層撮影できる検査機器も、全国で2番目に導入しました。さらに静脈麻酔を行い苦痛のない内視鏡検査を4年前に初めて実施しました。このようにがん治療を中心に、最新の医療を提供する体制を整えました。

加藤　私も実は西の京病院にはお世話になっていまして、PET検査も受診しました。玄関からうかがいますと、看護師の方がさりげなく車いすを持って来てくださいます。仕事が増えることをいとわず、患者さんのそばに立った心遣いをしてくださいます。このようなところに病院の対応の良さが出てくるものでして、よく教育しておられると感じています。

高比　医療は最新の技術と設備で、心は昔からの伝統を受け継いでいくべきだと考えています。

肉体癒やす病院 心の病は寺院で

―理事長のお話にも出ました「安心」と「信頼」で見守る環境づくりが、薬師寺とはご縁が深いようですね。

高比　メディカルプラザ薬師西の京を平成16年10月に開設しました。メディカルプラザ薬師西の京はPETカメラ3台（現在4台）、全身MRI1台、64スライスCT1台を導入し、透析センターを併設した本格的な検査施設です。その名前は、当時の管主だった安田暎胤長老によるものです。

加藤　薬師寺は天武天皇が皇后の病気平癒を祈願して建立されたもので、697年7月29日に開眼法要が営まれました。すでに持統天皇の世になっていましたが、天皇は30日に元明天皇に譲位して退位されます。皇后の病気平癒を祈願したということですが、実は国民の健康を祈願されたのだと思います。

人の死はいつ訪れる分かりません。いつ死ぬか分からないから、生きるということは貴いことなのです。人の死にざまは生きざまです。人の死には、もっと生きていてほしかった人と、死んでよかったと思われる人がいます。ここに毎日の生きざまが問われます。薬師寺は心の安らぎをもたらすだけではなく、病気治療、製薬や投薬をも行う施療院、薬草園、施薬院を設置していました。病気とは肉体の病と心の病があります。肉体の病を癒やすのが病院であり、心の病を癒やすのが寺院です。

ちなみに、古代の僧は、当時としては今日のキャリア官僚のようなエリートでした。寺はたんに信仰の場だけではなく、今日の総合大学のような役割も果たしていたのです。

仏教

48万日間の祈り 心の安らぎ伝えて

薬師寺管主
加藤　朝胤師

医療

「安心」と「信頼」で見守る環境づくり

医療法人康仁会
西の京病院理事長
高比　康臣氏

最先端医療からケアの生活支援

―薬師寺が古代からの仏教による癒やしを伝えてこられたのに対し、西の京病院は医療による癒やしに取り組んでおられます。

高比　医療については現在、内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、皮膚科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、麻酔科、血管外科、救急科を擁し、下肢静脈瘤（りゅう）手術、内視鏡、腹腔鏡手術、人工透析センターなどの最新の医療技術による治療を行っています。

4月には、がんに特化したPETがん総合検診と生活習慣病を含めた総合健診人間ドックが受診できる「西の京病院総合健診センター」がメディカルプラザ薬師西の京にオープンします。これからは、患者さまの病気を治療しただけでは解決しません。療養、介護、在宅など、患者さまを一生見守っていく医療環境を整備することが必要です。

そのために私たちは「富士山構想」を推進しています。これは「山はあくまでも高く、裾野は広く豊かである」という意味で、最先端の医療を提供するとともに、地域密着病院として、在宅での訪問看護や訪問介護など地域包括ケアシステムによる施設間連携のシームレスな医療・介護を提供し、キュア（治療）からケアまでの生活支援を目指していきます。

また康仁会では老人ホームも運営しています。老人ホームの多くは、医療機関との連携をうたっています。しかし西の京病院は、連携ではなく病院を運営する医療法人そのものが直営する体制ですから、必ず患者さまの面倒を見るのです。要は責任を持ってみていくということです。患者さまにとっての「安心」と「信頼」が医療による「癒やし」になると思います。

古代から未来へ癒やしの心伝え

―西ノ京の地での癒やしについて、一言ずつお願いします。

加藤　薬師寺はかつて12万坪の寺領を有し、現在の駐車場のあたりまで境内でした。現在は4万坪ぐらいまで縮小しましたが、金堂、西塔、回廊など白鳳伽藍の復興に努めてきました。

このたび東塔の大修理が完成することで、かつての姿がよみがえってきました。この1300年続く癒やしの寺の姿と心を、後世に伝えていきたいと考えています。

高比　西ノ京の地で開院してから今日まで、医療を核に療養、介護、在宅に至るトータルヘルスケアの体制を築き上げてきました。その中で大切なことは、理念だと思います。理念がしっかりしていれば、いろいろな人が協力してくれます。その理念の源は、病院創設時に懸命に奔走した日々を見守ってくれた薬師寺にあると思っています。西の京病院の建物は私が設計段階でさまざまな意見を言わせていただいたのですが、美しい薬師寺の姿を望むことができるように設計しました。これからも最新の医療を、癒やしの心で提供していきたいと思います

―西ノ京で、古代から現代そして未来へと、癒やしの心が伝えられていけば素晴らしいことだと思います。本日はありがとうございました。

解体修理が完了しつつある国宝東塔
（令和２年３月12日撮影）

西の京病院　総合健診センター　4月OPEN

がんに特化したPETがん総合検診と
生活習慣病を含めた総合健診人間ドックが
受診できる総合健診センター

予約専用ダイヤル
■PETがん総合検診　電話0742（35）1215
■人間ドック　電話0742（35）1564
〈受付時間　平日９時～16時30分　土曜日９時～12時〉

医療法人康仁会 西の京病院直営
グループホーム メビウスまほろば　4月OPEN
認知症の方が安心、快適な暮らしの中で、
可能な限り意思決定ができるようにサポートしていきます。
問い合わせ
■グループホーム　メビウスまほろば開設準備室
電話0742（81）7380